



共に考える

寒い中にも春の訪れを感じるころとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？冬から春への季節の変わり目は寒暖差が大きく、体調管理が難しい時期となります。衣服の調整や早めの花粉症対策など、それぞれ工夫して健やかに過ごしてください。

シャローム横浜では、年末から年始に入院されていた方々が、少しずつ退院して施設に戻られています。元気を取り戻して退院される方もおられますが、多くの場合、病気自体は改善しても、歩行や食事などの生活機能が低下した状態で戻られるケースが少なくありません。

最近では食事が摂れず、看取りを視野に入れて退院されてくる方が増えていると感じています。

先日、朝日新聞に「高齢者のがん選択を考える」という記事を目にしました。ここには娘さんが、74歳の父親が食道がんを発症したことをきっかけに、大病院の医師から手術を勧められたものの、両親が事の重大さを理解しているようには見え、混乱して

いる姿や、術後に衰弱した状況を見て、「本当にこれで良かったのか」と考えながら答えを模索している姿が描かれていました。

75歳以上で新たにがんを診断される方は年間45万人。がん患者全体の4割超になります。特に高齢者の心身の状態や生活状況は個人差が大きく、治療時には効果よりも悪影響が上回ってしまうことがあります。

これはがんに限らず、入院治療後の予後や生活の変化についても同じことが言えます。ご家族も著しい変化についていけず、十分に理解できない状況のまま、退院を選択して施設に戻れるということが起こっています。このことを踏まえ、今後ひとり一人の価値観や生き方を大切にしながら、治療や生活の場をどう選択するかを、私たちもご家族やご利用者と共に考え、模索し続けることで、「あったかいがいいね」と感じていただけるよう努力し続けていきたいと思えます。

施設長 高原 信夫

第 307 号

令和8年2月15日発行

(毎月1回 15日発行)

責任者:施設長 高原信夫

〒241-0802

横浜市旭区上川井町 1988

社会福祉法人アドベンチスト福祉会

シャローム横浜

☎045-922-7333

編集委員 荒金・石川・石橋

[https://www.adventist-](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)

[welfare.jp/yokohama/](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)



カップラーメンを食べる会



R8年1月9日、3階のご利用者 27 名が『カップラーメンを食べる会』に参加されました。このイベントでは、皆様がそれぞれ好きなカップラーメンを選んで味わい、楽しいひとときを過ごしました。

カップラーメンを食べながら笑顔で会話を楽しまれている様子がとても印象的でした。

普段の食事とはひと味違うカジュアルな雰囲気の中で、和やかな時間を共有できたことは、ご利用者の方々にとって貴重な体験となりました。

今後も、このようなアクティビティを通じて楽しい思い出を作り続けていきたいと思えます。

3階副主任 ズルハム リトンガ



EPA介護福祉士候補生の日本語と介護の勉強



現在シャローム横浜では、5名のEPA介護福祉士候補生が介護の仕事をしながらか日本語の学びも続け、介護福祉士国家試験合格を目指してがんばっています。

そのうち3名が今年1月に国家試験を受験し、3月の結果発表を待っています。また、昨年12月には、1名が日本語能力試験N1、別の1名がN2に合格しました。

仕事と勉強の両面でがんばっていますので、引き続き応援よろしくお願いします。

EPA 研修担当 平野 正晴

2月の行事食レポート：手作り抹茶ティラミス

栄養課主催の毎月恒例の行事食ですが、2月は「手作りデザート」でした。

春が近づき、だんだん暖かくなってくると抹茶スイーツがお店に並び始めますが、今回は季節を少し先取りして、手作りの「抹茶ティラミス」を提供させていただきました。



ティラミスクリームの下には、抹茶シロップを浸み込ませたカステラ生地を敷き詰め、表面には抹茶パウダーを振りかけた。抹茶スイーツはお好きな方も多いのではないかと思います。喜んでいただければ幸いです。

3月は「ラーメン屋台」を予定しています。どうぞお楽しみに。

栄養課 廣澤 美貴

貴方の御言葉はわが道の光なり

第215回 チャプレン 上前 至

私は今年で喜寿となりますが、自分が歩んできた道を振り返ると、そこに神様の不思議な導きを感じずにはられません。まさに「神は万事を益として下さる」(ローマ8章28節)という言葉を思わざるを得ません。まず私の家はキリスト教とは縁もゆかりもない家庭です。そんな私がまずクリスチャンになりSDA教会の信徒となり、さらには牧師となって宣教への道へと進ませたことに、不思議な神の導きを思わざるを得ないのです。

私の故郷は丹波篠山と言う京都に近い片田舎です。今でこそ黒豆の産地として有名になりましたが、当時は貧しい農家の集まりでした。そこから毎年、冬場になりますと仕事を求めて「杜氏(とうじ)」とって阪神地区に出稼ぎにいき「灘の生一本(きいっぽん)」とって酒造りのアルバイトに励んでいたのです。私の人生における大きな転機も、その習

慣であった出稼ぎに習った父が阪神地区に出て美術教師の職を得たことからでした。それをきっかけにして姉がまず洗礼を受け、続いて私が洗礼を受け神学校に入り、あまつさえ牧師となって米国やカナダの日系人教会牧師として働かせていただきました。合計10年ほどの海外生活となりました。そして日本に帰国した50歳頃に福祉職の世界に入り、今、こうして特別養護老人ホームのチャプレンとして働かせていただいています。

今までの自分の人生を振り返ると、そこに本当に不思議な神の導きがあることを思い起こさずにはられません。これからも聖書のみ言葉を我が道の光(詩篇119篇105節)として歩いていきたいと願うものです。

